

障害者支援施設や共同生活援助等における

障害者の看取りに向けて

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
理事 古川 慎治

高齢化・重度化は 喫緊の課題

- 障害者の高齢化・重度化はかなり進んできている
- 障害者支援施設やグループホームの利用者の年齢は50～59歳が最も多い
- 他方で3人に1人は60歳を超えているともいわれる
- 重度の知的障害者は加齢化が5～10年程度早いことを考えると喫緊の課題となっている
- 国の地域移行や施設入所者削減の目標値も高齢化・重度化のために下方修正されてきた

全国を回ると . . .

- 本人や家族の希望で利用者を施設で見とる事業者が増えてきている
- 他方で医療的ケアが必要になったら施設等を退所させる流れも見受ける
- 高齢化したら介護保険施設に移すという事業所も少なくない
- 本人や家族の意思より支援者や組織の都合が優先
- 事業所としてもどう関わってよいかわからない

障害者支援施設や共同生活援助等における障害者の看取りに向けて

- 地域移行の意思の確認が義務化される流れ
- 本人の意思決定が中心になる
- 人生の最後をどう過ごすか（人生会議：ACP）
- 施設の意向による本人の意思に基づかない入院（医療機関）での死をどうするか
- 具体的な本人意思の確認方法
- 障害者支援施設やGH等での看取りを選んだ時の受け入れ体制
- 今後について意思確認（体験）が極めて困難なケースの見極め（例えば、がんの末期）
- 本人にとってより良い人生の最後を提供したい